

1. 重点研究

- 前提応募条件 ・ひとつの分野だけでなく、複数の分野の教員が入っている
 ・100万円以上である

2. 一般研究・臨床共同研究

- 前提応募条件 一般研究 ・本学の複数の教員が入っている
 ・100万円未満である
 臨床共同研究 ・本学教員と臨床の看護職（実習施設職員）が入っている
 ・100万円未満である

審査点

① 研究課題の学術的重要性・妥当性（研究目的・本研究により期待される成果）

	審査項目	いずれかにチェック		
		良好	要小修正	要修正
1	学術的にみて推進すべき重要な課題であること、その背景が目的の箇所に記載されている			
2	本研究により期待される成果の箇所に於いて、学術的波及効果や貢献度が高いことが記載されている			
3	研究位置づけや目的が具体的に示されている			
4	研究目的の箇所に、研究成果の独創性や革新性があることが記載されている（※重点研究のみ）			
5	100万の応募額に見合った研究上の意義があるか（※重点研究のみ）			

② 申請計画の妥当性（研究方法）

	審査項目	いずれかにチェック		
		良好	要小修正	要修正
6	年度内で実施可能な計画である（スケジュール、準備性が記載されている）			
7	目的を達成するための方法として適切である（研究デザイン、方法が目的に合致している）			
8	計画が具体的である（研究デザイン、データ収集、分析手法が記載されている）			
9	役割分担が適切である（共同研究者の役割分担の記載がされている）			
10	倫理的な配慮がなされている			

③ 予算の妥当性 *助成に関する注意事項参照

	審査項目	いずれかにチェック		
		良好	要小修正	要修正
11	高額あるいは研究費総額に占める割合が高いものがある場合、その根拠が記載されている			
12	注意事項で支出できない内容あるいは金額の申請がない			
13	研究方法に見合った経費明細が書かれている			

審査の判断目安

- ①～③のチェック項目から、総合的に判断する。

3. 成果発表

- 前提応募条件
- ・ 申請年度の前年度もしくは前々年度の「共同研究（重点研究・一般研究・臨床共同研究）」の成果に関する成果発表計画である
 - ・ 40 万円以下である

審査点

	審査項目	チェック
1	発表内容において学術的重要性・妥当性が記載されている	
2	前年度の研究紀要に経過報告書あるいは実績報告書が提出されており、研究の完了が発表までに確認できる	
3	研究内容と発表予定学会に関連性がある	
4	交通費、宿泊費、学会参加費、欧文論文校訂費など各支払い予定費目に十分な妥当性がある（不必要に長期間の旅程になっていない、など）	

審査の判断目安

上記 1～4 のチェック数から、総合的に判断する。